

1-2-13-5 荏名神社標碑

(正面) 荏名神社

(背面) 文政元年歳次戊寅秋九月 飛騨郡代芝与一右衛門源正盛標

碑は高山市江名子町にあり、亀形台石の上に立つ。碑面高さ 127 cm。

本来荏名は荏野（えな）、すなわち荏（えごま）の生え育つ野という意味の地名であったのを、胞（えな）の意味と解されて、「子安大明神（飛州志）」と称し、安産の神様とされていた「稲置（いなぎ）の森」の小祠を、延喜式記載の荏名神社の跡地と定め、荒地を整備して、文政元年（1818）9月（翁 42 歳）そこに神殿を再建し、荏名大神・高皇産靈（たかみむすび）神 2 神を祀った。

天保 3 年（1832）（翁 56 歳）、男寿豊と神社を修理した。門弟の資産家日下部道堅が江名子・三枝両村の水田若干坪を永代祭祀料として寄進した。この年 9 月荏名神社再興碑文を門弟神代元浩（かじろもとひろ）に記させたが、建立にはいたらなかった。

標碑に文政元年と刻まれているが、実際の建立はこの頃かもしれない。

標碑手前の漱盥石（すすぎたらいいし）は弘化 3 年（1846）田中寿豊建。総高 86.5 cm。面取方形盥部 1 辺長さ 84.8 cm、内側 1 辺長さ 62.5 cm、鉢形底中央深さ 25.0 cm。

(正面) 神紋の環鈴を中心に右弘化丙午秋、左田中寿豊。

(北側) 「清潔」の 2 字浮彫。人の立つ側。

(西側) ロそゝぎ／手洗／すまし／をろ／がみて／神の／御前を／斎まつ／らせ／大秀

リーフレットより